

# 中国残留邦人等の体験と労苦を伝える 「戦後世代の語り部」 育成事業

我が子を捜す婦人

撮影：浜口タカシ 提供：(公財)中国残留孤児援護基金



残留孤児  
0歳の頃の写真



## 中国残留邦人



中国残留孤児と養父母(個人提供)

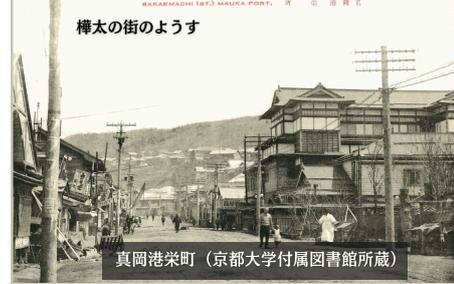


檜榔柏崎村先遣隊(柏崎日報提供)

## 樺太残留邦人



サハリンにて 朝鮮系一族との結婚式(残留邦人関係者)(個人蔵)



樺太の街のようす

真岡港栄町(京都大学付属図書館所蔵)

先の大戦が終結してから80年を迎え、中国残留邦人等が高齢化する中、残留邦人が生まれた背景や帰国までの経緯、帰国後の労苦と体験を風化させることなく、次世代へ継承する重要性が高まっています。首都圏中国帰国者支援・交流センターでは、平成28年度から中国残留邦人等の体験を後世に語り継いでいくための、戦後世代の語り部事業を行っています。

# 第4期 研修生 募集

### 募集対象

- (1) 戦後に生まれた方で、中国残留邦人等の体験と労苦の継承に深い関心と理解があり、戦後世代の語り部として次世代にその体験と労苦を伝える意欲がある方。
- (2) 約2年間の研修に継続的に参加可能であり、研修修了後、語り部として長期間活動可能な方(応募時、概ね65歳までとする)。
- (3) 中国残留邦人等について一定の知識を有する方が望ましい。

※中国残留邦人等の2~4世の方、ふるってご応募ください。

### 研修概要

令和7年9月以降、月1~2回程度研修(土曜又は日曜を予定)を実施します。

- 1年目：基礎的知識の習得、帰国者本人からの聴き取り
- 2年目：語り部講話作成、話法技術等の習得、講話演習、実習

◎研修終了後は、委嘱を受け、語り部として講話活動をしていただけます。

### 募集人数

5名程度

### 応募方法

応募用紙に必要事項をご記入のうえ、小論文(1600字程度)を添えて問い合わせ先まで、郵便又はEメールでお送りいただくか、ご持参下さい。

※小論文のテーマ：「中国残留邦人等に関心を持ったきっかけと継承への思い」  
応募用紙はホームページからダウンロードできます。

### 募集期間

令和7年5月30日(金)~7月5日(土)(必着)

### 選考方法

応募用紙及び小論文による書面審査と面接により、選考を行います。  
(選考結果は8月上旬頃、郵送でお知らせいたします。)

## ○中国残留邦人等／中国・樺太帰国者とは

1945（昭和20）年当時、旧満洲地区（現在の中国東北地方）には、軍人の他に155万人の日本人が住んでおり、そのうちの27万人は開拓団として農業に従事していました。しかし、同年8月9日、ソ連軍の国境を越えた攻撃が突然始まったために満洲は大混乱となり、日本人は着の身着のままで避難を始め、逃避行中や避難所では飢餓や伝染病などにより死亡者が続出しました。このような混乱の中で、肉親と生別、死別し、中国人養父母に育てられた幼い子ども（中国残留孤児）や、生きる為にやむなく現地の人と結婚した女性（中国残留婦人）、及び何らかの理由で残留せざるを得なかった男性がいました。それらの人々を「中国残留邦人」といいます。



大人になった中国残留孤児  
（トラクター手前の男性、中国にて撮影）

また、日ソ開戦時樺太（サハリン）には約38万人の日本人が住んでいましたが、1945年8月25日ソ連軍により樺太が占領され、その後も様々な事情が障害となり、長年にわたって樺太や旧ソ連本土に残留を余儀なくされた人々を「樺太残留邦人」といいます。

## ○残留邦人の体験と労苦を伝える「戦後世代の語り部」講話活動

☆今語り部は何人いるのですか？

➡ 現在13名の語り部が活動しています。

☆今まで何人くらいの方が聞いたのですか？

➡ 2020（令和2）年に語り部派遣が始まってから延べ約6500人の方が講話を聞いてくださいました。

☆どのくらいの頻度の活動ですか？

➡ 一人の語り部につき、大体2か月に1回程度講話の機会があります。

☆どんなところで話すのですか？

➡ 聴講を希望する団体・グループの会場へ赴き、40分程度お話しします。関東圏が多いですが、遠方の場合もあります。



研修にて残留邦人からの聞き取りのようす

### 実際の講話を聴いた方々からの感想

一つの戦争がきっかけで多くの人生がくるってしまうのだなと心から実感した。（小学6年生）

一世はもちろんのこと、二世、三世と、違うベクトルでの苦労がある事を知り、戦争が生んだ根深い問題だと強く感じました。（大学生）

歴史は一場面を切り取って学びがちですが、時と共に長く続くものと実感を持ちました。（40代）

戦後はまだ終わっていない。いまだに残留邦人がご苦勞されていることに胸が詰まる。（80代）

### これまでの講話活動先の例

- ・地域の帰国者支援グループのイベント
- ・自治体の初任者研修
- ・定住外国人を支援している団体等の勉強会

- ・戦争や歴史を学ぶ市民グループ
- ・小学校・中学校・高校の総合の授業
- ・大学の講義など



小学校での講話



市民グループでの講話

## 問い合わせ先

首都圏中国帰国者支援・交流センター

語り部担当 大高・小川



応募先QR

〒110-0015  
東京都台東区東上野1-2-13  
カーニープレイス新御徒町7F  
電話：03-5807-3171 FAX：03-5807-3174  
（火曜日～日曜日 9：30～17：45）※月・祝休み

ホームページ：https://www.sien-center.or.jp/  
Eメール：kataribe@sien-center.or.jp

首都圏中国帰国者支援・交流センターは、帰国した中国残留邦人等とその家族が、周囲の人とのつながりの中で、それぞれの世代にふさわしい「自立」を実現できるよう、日本語学習支援、地域での交流事業、生活相談などを行っています。